

令和3年度 バルツァ・ゴードル事業報告

薬剤課

薬剤課の業務内容は以下の通りです。

1. 定期薬の調剤、監査、定期薬カートへのセット
2. 臨時薬の調剤、監査、払い出し
3. 処方箋疑義照会
4. 定期処方箋発行業務の医師の代行
5. 短期入所の薬の確認、セット
6. 外泊時持参薬の用意
7. 医薬品情報の収集
8. 医薬品管理(在庫の確認、発注、返品、期限の確認、病棟ストック薬の見直し)
9. 棚卸し
10. 在庫額の集計
11. 期限切れ薬品の集計、廃棄、インフォメーション
12. 感染サーベイランスの作成
13. 医療監査項目の整備
14. 医薬品業務手順更新
15. 外部研修会への参加(ウェブでの参加)
16. メーカーによる医薬品説明会の調整(現在はコロナ対策にてウェブにて情報収集)
17. 院内勉強会
18. 医薬品コストのインフォメーション

栄養課

ご利用者様への食事提供については、昨年度に引き続き大きな事故も無く、無事に終えることができた。厨房においては、委託会社の人員体制にやや問題があったものの全体的な運営としては安定かつ衛生的に運営できたと考える。

施設側においては、常勤管理栄養士 1 名の体制で業務を行ってきた。献立や発注業務など日々の業務内容を精査しながら、大きな混乱なく遂行できたのではないかと考える。

＜2022 年度(令和 4 年度)の目標・課題＞

- ・食事形態等における課題解決に向けた取り組みの継続
- ・安心・安全な食事の提供
- ・栄養(再)評価及び NST 運営の継続 等

【2021 年度まとめ】

前年に引き続き、管理職を交えた委員会構成で毎月開催することができた。味見食や聞取りによる嗜好調査をとおり、日常的に食事に対する意見をとりまとめることにより、きめ細かい対応ができたと考える。参加している各課管理職の協力もあり、日々の給食提供や行事等の対応もスムーズに行うことができた。

厨房委託業者には毎回参加してもらうことにより、お互いの信頼関係を築くと共に、積極的な意見交換が出来たと感じる。次年度も引き続き、積極的な意見交換を行いより良い給食の提供に努めたい。

訓練課

訓練課

常勤セラピスト各々がオンラインにて、各専門分野の自己研鑽をすることができた。また、利用者についての情報共有を行うことができた。

新型コロナウイルス対策としては、訓練室の温度・湿度管理や、訓練時に使用する物品を共用しない事、訓練室の清掃・消毒、物品の洗濯などを行った。感染対策により病棟で訓練を行う事で、病棟での利用者の様子や装具の使用状況を直接確認する事が出来るようになり、病棟スタッフからの相談も増えた。感染対策の中、1階班・2階班に分かれての動きを2年間継続している。訓練課、病棟スタッフともに、この動きに慣れ、対応ができるようになってきている。今後も、他職種との連絡をこまめに行い情報収集に努めるよう気を付けたい。

また、訓練課全体の自己研鑽の機会としては、オンライン開催となった全国重症心身障害児者施設職員研修会に幹事園として参加し、様々な感染対策やセラピーの情報を収集出来た。

地域支援

昨年度に引き続き、利用に際しての制限を設定した上で、受け入れを行った。

床数はコロナウイルス感染対策の為、個室対応となる事から2020年度から引き続き2床での運用を行っている。

令和3年度年間の予約日数は516日、利用日数実績は436日であり、2床想定での稼働率としては約60%となっている。

キャンセルの内訳としては、コロナウイルス感染症対策による病棟隔離で利用を中止した数が57日、本人・家族の体調不良や予定変更によるキャンセルが23日と予定と実績の大きな乖離が見られる。

当園の感染状況が利用に際して大きな影響となる一方、利用前での入院や体調不良でキャンセルとなるなど、利用者の中には体調の崩しやすい方も多くおられ、予定通りに実績を積み上げられないのも医療型短期入所の特徴と感ずる。

新規利用についての相談は多く見られた。しかしコロナ禍という事もあってか、登録のみで、継続しての利用には至っていないのが現状である。

今後制限の緩和が行われると共に、利用の促進となるよう、利用案内などを積極的に行っていく事が課題となると感じている。

防災訓練

訓練状況：新型コロナウイルス予防で病棟分離している為、全体訓練は各課に分かれての机上訓練になった。アクションカード作成を目指した。

実施日	内容	人数	種別
2021.4.1	新入職員対象消防設備、避難経路オリエンテーション	5	消火・通報・避難
2021.5.18	全館停電調査時に停電体験アンケート・消防設備点検	25	防災・消・通・避
2021.6.15	垂直避難見直し・消防設備・避難経路点検	13	水害・消火・通報・避難
2021.7.14	自然災害に対する業務継続計画BCP研修（リモート）	40	防災・BCP
2021.7.20	垂直避難部屋割り・ベッド配置図作成・モニターの移動方法・消防設備・避難経路	16	水害・消火・通報・避難
2021.8.17	モニター移動マニュアル・配線整理・垂直避難役割カード	16	水害・避難
2021.9.1	トヨクモ安否サービス一斉送信	66	防災
2021.9.21	通報・初期消火・避難誘導等のアクションカード作成 実際に使用してみる	16	消火・通報・避難
2021.10.2	11:00～13:00 佐保短大で地域防災訓練に参加	2	防災・避難・避難所生活
2021.10.19	水平避難について学ぶ	13	消火・通報・避難
2021.11.16	全体訓練（日勤帯で厨房から火災）	20	消火・通報・避難
2021.12.21	全体訓練 アクションカード見直し更新。煙対応学ぶ	13	消火・通報・避難
2022.1.18	各課でアクションカードを使用し、机上で早朝5時想定で消火・通報・避難準備・避難誘導する。	13	消火・通報・避難
2022.2.16予定	アクションカード更新・2021年度実施表・2022年度計画表を検討する	13	消火・通報・避難
2022.3.16予定	2022年度の計画書点検確認	13	防災・消・通・避

284

寄付・助成金等

事業名	名称	金額	適用
ボランティア活動支援事業	政策医療振興財団	80,000 円	ポータブル電池
寄付金	岡谷会医療・介護福祉労組ヘルプ°ST 分会	30,000 円	感染用医療材料
寄付金	家族会	150,000 円	活動用品
イオンギフトカード	イオンイエローシート	88,300 円	活動備品
医療提供体制確保支援補助金	奈良県	4,650,000 円	紙カルテ電子化等
施設整備費補助	奈良県	1,817,000 円	簡易陰圧装置
感染拡大防止継続支援助成金	厚労省	100,000 円	感染用医療材料
オンライン資格確認導入助成金	厚労省	2,099,900 円	オンライン資格ソフトウェア
緊急包括支援事業助成金	奈良県	1,947,000 円	IDNOW 遺伝子分析装置

令和 3 年度 事業報告書

特別養護老人ホーム サール・ナート

1. 基本方針

今年度の事業運営については、昨年同様、新型コロナウイルス感染症の感染対策が中心であった。

ワクチン接種をはじめとする感染予防対策や万が一、施設内でのクラスターが発生した場合のリスクをどうやって軽減していくかなどが最優先事項となった事業運営であった。

また、人的にも、施設職員数名の感染者が出たり、職員のご家族が感染され複数の職員が濃厚接触者となったりと苦しい状況が続いた1年でもあった。

行事等はほとんどできず、ご利用者様やご入居者様には大変なご迷惑をお掛けしているが、生命を守ることを第一と考え業務に努めた1年であった。

2. 事業目標

I 特別養護老人ホーム サール・ナートの重点（目標）課題

特養では、新型コロナウイルスの影響もあり、ご入居者様とご家族様には外出・外泊を制限させて頂いていることで、窮屈な暮らしを送らざる負えない状況となっている。ご入居者様の中には少なからずストレスを抱えている方もおられるため、感染予防対策を講じながら、心身ともに安定した生活となるようケア内容を見つめ直し、今後ともご入居者様の命を守っていくことに努めていく。

次年度は質のあるケアの実現を目指すべく、認知症の方のケア方法や知識・技術の向上を図っていく。また、個々の振り返りを行う機会を定期的に設け、職員同士がケアの質を高め合えるよう働きかけ、多職種で話し合う機会を継続していく。

I. 職員のケアの質の向上について取り組む

- ①担当者会議、カンファレンスを通じて、多職種とケアについて話し合う機会を設ける。
- ②内部研修を3ヶ月に1度実施する。認知症研修や身体拘束、虐待、権利擁護、接遇等の内容を行い、研修を通じて自らのケアを振り返る機会を設ける。
- ③新型コロナウイルスの感染対策を行った上で、外部研修へ参加し知識や技術の向上を図る。また、オンライン研修を受講できる環境整備をしていく。
- ④担当者会議を中心に家族様のご意向を聴き、ケアの方針を決めていく。ご面会制限の解除状況に応じて、家族様へのアンケートを実施してサービスの課題を抽出していく。

新型コロナウイルスによる、緊急事態宣言やまん延防止等措置重点措置の影響により担当者会議が開けない時期もあったが、多職種でケアについて話し合うことはできていた。家族様へは定期的に面会に来られる方は利用者様の状態をお伝えし、ご意向を聴くことがで

きたが、それ以外の家族様は十分に意向が確認できたとは言えなかった。看取りケアに関しては今年度 7 名の方を対応。意向に沿って行うことができた。研修に関しては新型コロナウイルスの感染対応、職員欠員により研修企画を十分に立てることができなかった。業務に指導が必要な職員に関しては内部研修を行い、面談を定期的に行う事で改善を図った。

Ⅱ. 職員研修制度の構築

- ①中途採用、未経験職員と研修制度を明確に分け取り組む。特に介護未経験の職員は認知症基礎研修を受けるよう、研修を進めていく。

大阪府において未経験職員に対する認知症基礎研修の実施は、今年度 9 月から実施されていたが、未経験職員に対しては現場業務の指導が優先となり、実施に至っていない。次年度は研修計画を立て実施していくこととする。

Ⅲ. 外国人技能実習生の知識や技術の向上

- ①外国人技能実習生の技術・知識の指導、生活環境の見守りを徹底し、日本語やケアについて質を高めていく。日常生活記録の記入ができるよう、介護の日本語用語や読み方を学んでいく。
- ②3 ヶ月に 1 度面談、自宅訪問を行い生活状況、生活環境の確認を行う。

①日本語に関する研修は定期的に参加し、JLPT 試験に挑戦した結果、全員 N2 試験に合格となった。翻訳機を使用せず、日常の会話もできている。新型コロナウイルスの影響により自宅訪問はできていないが、生活面においては定期的を確認しており、トラブルは無い。今後も継続していく。次年度は実習期間の満期に伴うことから、実習生一人一人の進路については確認していく必要あり。

<栄養課>

① 栄養ケアマネジメントの取り組み

栄養ケアマネジメントを通して、ご入居者様の個々の栄養状態の把握を行い、低栄養の改善に努めた。

今年度も、個々の基礎代謝量を算出し、目標栄養量、体各指数を策定し、多職種と円滑に栄養改善を図れましたので、継続して、生活の場の支援を行っていく。

② 献立作成にあたって

現状の食事サービスの把握を行い、質を落とさず、入居者様のニーズにあった食事サービスに出来る様に取り組んできました。今後も、コスト管理を怠らず、変化に富んだ、楽しんで喜んでもらえる食事サービスの提供に取り組んで行く。

又、コロナの状況下でも、喜んでもらえる行事の実施にも取り組んで行く。

Ⅱ 短期入所生活介護（ショートステイ）の重点（目標）課題

今年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、一つ間違えば施設内に感染を持ち込む可能性が大きく日々、神経を尖らせながらの事業運営であった。

幸いにも施設内に感染症を持ち込むことなく無事に1年間を終えられたことが何よりの成果と考える。今後もあと数年はこの様な状況が続くと考えられるが、徹底した感染予防対策に努め、ご利用者様に安心してご利用していただけるよう努めて行く。

① サービスの質の向上を目指す。

サービスの質の向上という点では、目標は未達成に終わった為、引き続き次年度への課題とする。

② 感染対応の徹底を図り、安全・安心なサービス提供に努める。

感染対応の徹底を図り、安全・安心なサービス提供を実施することが出来た。

③ 年間稼働率 85%以上を目標とする。

コロナ渦ではあるが、年間稼働率は、93.8%と目標値よりも大きく上回る結果を達成することができた。

Ⅲ 通所介護（デイサービスセンター）の重点(目標) 課題

ご利用者様が楽しくデイサービスに通えるように一人ひとりに細やかな援助をすることできるように努めてきた。ご利用者様・ご家族様・ケアマネジャー等の要望にも早期に対応できるようにして信頼関係を築けるように努めた。また、引き続き在宅で生活ができるように筋力維持や向上に向けたプログラムを組むようにしてきた。

今年度も新型コロナウイルス感染症が流行した為、感染予防に努めてのデイサービスの運営となった。デイサービスを休止することなく営業できたが、感染予防で多くの行事・レクリエーション等を制限し、ご利用者様にも感染予防に協力してもらった。来年度も感染予防は必要である為、引き続き感染予防を行いながら安心してご利用して頂けるようにしていく。

1. 今年度の重点事業目標

(1) 自立支援と在宅生活の維持の援助

- ・日常生活における動作が維持できるように在宅支援の視点を持って援助をするように努める。

在宅での生活を継続していけるように、下肢筋力をつけないといけない方や病気で運

動が必要な方へは、個別で歩行訓練を行うようにした。個々に必要な支援を行うことで自立した生活を送ることの出来るように支援することができた。個々に在宅生活での不安等を聞き出してデイサービスでできる対応をケアに繋げていくように取り組むことが出来た。

- ・通所介護計画書に基づいてご利用者様一人ひとりのニーズに合わせたケアを提供する。また、ケアプランや状態の変化があった際は、早急に通所介護計画を変更する。

ケアプランが変更した際には、担当のケアマネジャーと情報を共有し通所介護計画書を見直して新しい通所介護計画書を作成した。新しい通所介護計画書をご利用者様・ご家族様に説明し、同意してもらい一人ひとりのニーズに合わせた計画書にして個別ケアができるように努めた。

- ・午前中、アクティビティの際に個々に合わせた個別のプログラムを提案する。また、ADLが維持できるように体操・レクリエーションの充実に努める。

コロナウイルス感染症の影響で外出の機会が減り運動不足の方も多くおられたので、1日の中でラジオ体操をする機会を作るようにした。また、体を動かす時間を多く持つように努めた。午前中のアクティビティは、同じものにならないように小まめに新しいものを提供するようにした。ご利用者様一人一人が好きなようにデイサービスで過ごして頂けるように状態に合わせて対応するようにした。午前中のアクティビティを希望されない方への対応が今後の課題である。

(2) サービスの質の向上

- ・認知症を患っているご利用者様が増えている中、職員は認知症に対しての理解を深めて認知症対応力を身につけていけるように職員を育成していく。ご利用者様やご家族様からの相談事にもすぐに対応して助言できるように努める。

認知症を患っているご利用者様は増えてきており、対応が難しい時がみられているが時間をかけて寄り添うケアを実施している。ご家族様からの相談を受けることがあり、在宅生活で活かせる助言をするようにしている。一人一人症状が異なるので、一人ひとり対応を変えていかなければいけなく、今後も認知症への対応力はつけていかなければいけないと考える。

- ・ご利用者様・ご家族様との信頼関係を築き、意向を把握して援助を行う。

ご利用者様、ご家族様から今必要とする援助を普段の会話から読み取り援助に繋げていくようにしている。相談事を受けた際は、すぐに対応することを心掛けて信頼関係をつなげることができるように努めた。

- ・プログラムを定期的に見直しご利用者様が楽しむことのできる取り組みを実践していく。

コロナウイルスの影響もあり、プログラムを縮小し、コロナウイルスの感染状況を見極めながら、プログラムの見直しを行ってきた。しかし、なかなか新しいプログラムの提案が出来なかった為、来年度は新しいプログラムを増やして楽しみが増えるように努める。行事やおやつレクリエーションが中止となった分、毎月クラフト教室を開きご利用者様には楽しんで参加して頂く事ができた。作った作品を持って帰ってもらうことでご利用者様だけではなく、ご家族様からも喜んで頂く事ができた。

(3) 運営の安定

- ・他事業所と連携してデイサービスでの様子を共有し心身状態の維持向上を図り地域から信頼される事業所目指して新規のご利用者様を増やしていく。

他事業所からの相談に対しては早急に対応するように努めた。新規の相談に対しては真摯に対応して受け入れるようにした。新規のご利用者様は毎月増えることはできた。また、新しい事業所からの相談・受け入れもすることができた。今後も、新規ご利用者様が増えるように他事業所との交流を深めていく。

- ・月1回デイサービスでの様子が分かる新聞（ハッピーデイ）の発行とSNSを使いデイサービスでの様子をインターネット上にアップしてサール・ナートデイサービスの様子が見える化を図っていき新規ご利用者様につなげていく。

毎月のハッピーデイの発行は続けていくことができたが、コロナウイルスの感染症の影響でSNSでの投稿が滞ってしまった。新規のご利用者様や見学・相談の際はハッピーデイを渡していつもの様子をみてもらうことができた。今後も引き続き行っていく。

- ・事業所内での役割を把握してショートステイや特養への入居へスムーズに行うことができるように各部署との連携の強化を図る。

デイサービスを利用している方がショートステイをご利用することはあったが、それから特養への入居に繋がるケースはなかった。今後も連携の強化を図りスムーズに入居できるように努めていく。

- ・デイサービスをご利用しているご利用者様と地域をつなげるために、社会活動や地域の方との交流を促進していく。行事や慰問を通して地域の方との交流を図る。

コロナウイルスの影響にて、地域との交流等を行わなかった。コロナウイルスが落ち着いてきた際には、慰問等を再開して地域との交流を増やしていく。

(4) 感染症対策

- ・感染拡大防止に向けた取り組みを行い、感染症の疑いがある場合は、早期に把握して対応できる体制を作り、日頃よりご利用者様の状態や変化の有無に留意して対応する。

ご利用者様にもマスク着用・手指消毒を依頼しお迎えの際に検温してご家族様に体調確認をするようにしている。ご家族様との関りを大切にする事で早期に対応できるため、今後も密に関わっていくことが必要である。今年度、ご家族様が感染した際も早期に対応することができた。

・職員は、施設の感染症マニュアルに基づき、感染予防に努める。

コロナウイルス感染症が流行してからは、ご利用時間内にデイルーム・トイレ等の消毒をこまめに行うのとこまめに換気するようにしている。また、手洗いや手指消毒もこまめにおこなっていた。職員の体調管理や感染状況を見極めて職員を休職するように調整するようにも努めた。今後も引き続き感染予防対策を実施していく。

(5) リスク管理

・安全にデイサービスをご利用して頂けるように事故防止に努め安心したサービスを提供する。事故が起これないように環境整備に努める。事故が起こった際は、再発防止策をすぐに立てて対応できる体制を作る。

今年度、転倒の事故は5件で内1件は骨折事故で枚方市にも報告した。内出血・表皮剥離が7件あった。事故が起きた際は、職員間で共有して事故防止に努めた。事故が起きた際は早急に対応して家族・担当ケアマネジャーへ報告するようにした。事故が予防できるように日頃から環境整備に努めていく。

・安全で安心してデイサービスに通うことのできるよう事故なく送迎を行うようにする。定期的にミーティングを行い事故防止に努める。年に数回、施設の車を運転する職員向けの講習会を実施して安全運転の意識持てるようにする。

送迎後に運転手間のミーティングをしている。その時に、送迎時・ご利用者様等で気になることを話し合うようにしている。今年度は、コロナウイルスの影響で講習会を実施することはできなかったが、安全運転5則の唱和・アルコールチェックは実施した。今後も引き続き行っていく。

2. 稼働率目標 定員 29 名

稼働率 68%（平均 20 名）以上を目標に毎月営業活動を行う。

4 月 : 45% (13 名)	8 月 : 52% (15.2 名)	12 月 : 52.1% (15.1 名)
5 月 : 39% (11.6 名)	9 月 : 53.1% (15.3 名)	1 月 : 52.5% (15.2 名)
6 月 : 42.2% (12.2 名)	10 月 : 52% (15.0 名)	2 月 : 45.1% (13.0 名)
7 月 : 50.1% (14.5 名)	11 月 : 53.6% (15.5 名)	3 月 : 48.4% (14.0 名)

目標としていた稼働率には及ばず、平均の稼働率が 48.8%であった。（平均人数：14.1

人) 毎月の新規ご利用様を増やすことはできてはいたが、コロナウイルスの流行・施設入所・入院等により利用人数が減って行った。

来年度、経営の安定を図る為にもご利用様への定着・新規の受け入れを進めていく。

3. 年間行事予定

4月：お花見（中止）	8月：夏祭り（中止）	12月：望年会（実施）
5月：喫茶（中止）	9月：敬老週間（実施）	1月：初詣（中止）
6月：買い物（中止）	10月：運動会（実施）	2月：節分（中止）
7月：夏祭り（中止）	11月：焼き芋（実施）	3月：春祭り（中止）

※コロナウイルス感染症の感染拡大状況により行事をその都度見直し対応するようにする。

今年の行事は、コロナウイルス感染症の影響により、中止する行事が多くあった。その中でも行事の規模を縮小する・内容を変更する等の対応を行いながら楽しんで頂けるように努めた。今後も引き続き感染症予防を行いながら行事やレクリエーションを実施していく。

IV ケアプランセンターの重点(目標)課題

コロナ渦においても、ご利用様ひとりひとりのニーズを把握し自立支援・重度化防止の為に必要な介護・医療・保健サービスが切れ目なく提供できるように、サービス事業や関係機関と連絡調整をして支援を行ってきた。

しかし、急なサービス中止や予定していたサービスが実施できない事もあり、ご本人様やご家族様が不安を感じる場面もあった。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中であるが、より一層関係機関とも連携しご本人様やご家族様には丁寧な説明や代替サービスの提案などを行い、安心して過ごして頂けるように支援をしている。

① 安定した事業運営

・特定事業所加算（A）の取得に向けて準備を進める。

加算取得に向けて準備を進めていたが人員配置で加算要件を満たす事ができなかった。

居宅介護支援事業所の管理者が主任ケアマネジャーであることが要件となっているが2027年3月まで経過措置が延長された事もあり、今後加算を算定するかは引き続き検討していく。

・加算要件を満たした場合はもれなく加算を取得する。

初回加算や入院時情報連携加算Ⅰ・Ⅱについては、もれなく算定する事ができ、特養と連携して退院・退所加算（Ⅲ）も算定する事ができた。また、今年度新設された通院時情報連携加算を算定し、医師に利用者の心身の状況や生活環境の必要な情報提供を行い、医師等から利用者に関する必要な情報提供を受ける事ができた。

今後も、ご利用者様の支援の中で要件を満たす加算についてはもれなく算定していく。

・ケアプラン作成数は1人月平均30件とする。

要介護認定ご利用者様の新規契約数は23件で昨年度より8件増、要支援認定ご利用者様の新規委託数字は3件で5件減であった。ケアプラン作成数は月平均33件で目標を達成する事ができた。今後はケアプラン作成数だけではなく、要介護3、4、5の重度のご利用者様が、住み慣れた自宅での生活が維持できるようにケアプランの作成を行っていく。

② 各部署や関係機関との連携の強化

法令遵守と適切なアセスメントに基づき、特養併設居宅としての強みを生かして在宅からスムーズな特養入居支援を3件行った。また、特養より在宅復帰支援を行った際には退去前のカンファレンスの実施やサービス調整、在宅復帰した後に施設職員が自宅訪問を行う等、途切れる事無く連携し、ご利用者様やご家族様が不安を感じる事無く生活を始める事ができるように支援を行う事ができた。

地域包括支援センターと連携した支援が困難なケースへの対応については、認知症の為に介護の必要性を受け入れる事ができない方・支援の必要性があるもサービス利用に抵抗がある両親を心配したご家族様からの依頼があり、1件は在宅サービス利用後に施設入所されるまでの支援を実施する事ができたが、依頼があったケースの中には、ご本人様は生活の中で不自由さを感じておらずサービス利用にはつながらなかったケースもある。これらのケースに関しては、定期的にご家族様やご本人様に連絡を入れ関わりを持ち続けており、今後ご本人様とご家族様の意向を確認しながら必要に応じて介護保険外サービスや地域資源等の紹介等も含んで必要な支援を行っていく。

③ 介護支援専門員としての資質の向上

- ・介護支援専門員実務研修実習受け入れ施設に登録しているが、今年度の実習受け入れ要請はなかった。引き続き登録を継続し実習受け入れ要請があれば対応をしていく。
- ・主任介護支援専門員更新研修受講の要件を満たす為に、予定していた法定外研修を受講する事ができた。今後も計画的に研修を受ける事で更新申請に必要な要件を満たしていく。
- ・地域包括支援センター等が主催する事例検討会には事例を提出しての参加は無かった。今後も、事例提出依頼や参加の案内があれば参加を前向きに検討していく。
- ・丁寧で分かりやすい言葉で説明をして支援を行う事を心がけていたが、デイサービスでのサービス内容について説明を求められる場面と新型コロナウイルス感染症の影響でサービが急に中止となりそのサービス調整について説明を求められる場面があった。頂いたご意見を真摯に受け止め、各サービスとも連携し苦情につながらない支援を行っていく。

④ 地域貢献活動

ポータブルトイレ3件・車いす2件の一時貸し出しを行い地域の方々に喜んでいただく事ができた。貸し出しをきっかけに介護保険サービスの相談や利用につながったケースもあり、地域の身近な相談窓口としての役割を担事ができた。今後も地域の方向けの福祉用具（車いす・ポータブルトイレ・歩行器・杖等）の一時貸し出しは継続して行っていく地域に貢献できる事業所として認知されるように日々努めていく。



(太鼓の演奏)



(クリスマス会)



(敬老祝賀式)



(夏祭り)

地域密着型介護老人福祉施設 サール・ナートかたの 令和3年度 事業報告

地域密着型特養

1) 特養入所の安定と継続

稼働率 94%（年間空床 517 日 内入院による空室 298 日）退所は 12 名。入所 11 名。申込・入所希望者が少なく待機者は 20 名程度で早期入所希望者が 0 人という時期もあったことでスムーズな入所ができなかった。また例年であれば空室を SS 利用希望者で活用してきたが、今年は活用日数 119 日でコロナ感染症の影響で希望者の受入ができない期間もあり厳しい一年であった。次年度も入所が困難となることが予想され居宅介護支援事業所への空室案内で入所や SS 希望者がいないか働きかけていく。

2) 人材確保・定着・育成

確保：入職者 18 名（常勤 5 名 非常勤 13 名）人材紹介業者を通じての採用もあったが多くはハローワークや法人リクルートサイトからの採用もできた。

定着：退職者 15 名（常勤 3 名 非常勤 12 名）入職後すぐの退職や長く勤めてくれた職員の退職があった。人間関係による部分退職も続いた為、部署で話し合い定着できる環境づくりに務めた。

育成：内部研修を各ユニットで計画・実施したことで、個々の課題に取り組みチームケアを図れたが、各ユニット進め方で差があり課題が残った。外部研修はコロナ禍で機会を作れなかった。

3) 介護の取り組み

①季節を感じる環境づくり

コロナ禍の影響で全体行事は少なかったが、ユニット毎では行事で季節を感じる取組ができた。食に楽しみが持てる企画が少なく、次年度は季節を感じる食で楽しめる取組で生活の質の向上も図りたい。

②生活の質の向上を図る

ケアプランに基づいた支援はでき質の向上を図れたが、より個人の意向やニーズに基づいた支援計画作成の為のアセスメントや意見交換を取り組みたい。

③多職種との協働

栄養士とは委員会、ケアマネジャーとは担当者会議で協働できたが、最も連携を図るべき看護師との意見交換する機会は業務中が多く、ゆっくり協議する機会をつくることが課題として残った。

4) 栄養課の取り組み

①栄養ケアマネジメントの取組

栄養ケアマネジメントを通して栄養状態の把握を行い低栄養の改善に努めた。個々の基礎代謝量を算出し目標栄養量、体格指数を策定し多職種と円滑に栄養改善を図れた。

②給食管理の取組

献立作成では質を落とさずご利用者様のニーズにあったサービス提供に取り組んだ。またコスト管理や楽しく喜んでもらえる食事の提供に努めたが、行事は出来なかったことが課題として残った。

5) 医務の取り組み

①入居者様の健康管理：異常の早期発見に努め、治療の経過観察と評価を行い体調管理に務めた。

②職員の健康管理：職員健診の実施し検診医の指示のもと、指導や受診の勧め、治療を行った。

③多職種連携：看護師間での連携や協働が不十分であったことで、介護職員との連携で課題が残った。

④コスト意識：月 1 回の医療物品点検で管理し、対応できるものは生活品を使い意識付けを行った。

6) 地域との連携

コロナ禍で元気アップ体操教室や出前講座などの活動実績はなし。運営推進会議は定期的に行い地域包括支援センター職員、地域民生委員との情報交換や施設の活動報告などは行えた。

短期入所生活介護

① 様々なニーズに応える環境整備

虐待や入院等で介護者不在などの緊急受入時、医療・ケア情報を把握しニーズに応えた。コロナ感染症に対する環境整備は十分なものはなく受入体制の構築は大きな課題であるが、実際には具体策はない。引き続き緊急受入時はご利用者様だけでなく感染状況や他サービスの利用状況などの情報収集も行い受入判断していく。

② 質の向上

ユニット行事は前年度同様できたが特養と比較すると少なかったが、日頃の体操や塗り絵などの作業や回想法 DVD の活用、散歩はで時間を工夫して行えた。ケアでの課題は在宅 CM とご家族様と相談しながら進めたが、情報共有が難しくケアが進まないケースもあったので、情報共有は課題であるがコロナ感染症の影響も考慮した対策を構築することが課題。

③ 年間稼働率 90%を目指す

年間稼働率 87%で目標を達成できなかった。原因にはコロナ感染症の影響を考え特養の空床利用も 119 日と有効活用が十分できなかったことや、ロング SS を提案した際に利用料が高いと断れるケースが多かったことなどが考えられる。

地域密着型通所介護

1) 地域との繋がりづくり

依然コロナ感染症の影響でコミュニティの場へ参加できない状況であった。ボランティア活動も同様であったが、定期的に状況報告などの連絡や施設見学行事を通して繋がりが途切れないよう取り組んだ。

2) 自立支援に向けた取り組み

自立支援の取組は個人の状態に応じて取組むため感染対策の密を避ける取組と重なり取り組み易い状況となった。ただ状況や状態が安定しない中、支援を定着させるには課題が残った。

3) 認知症の方への特化した環境設定

個別の状態把握が出来たことでケアの見直しを行う頻度も増えたことが良かったが、認知症の症状が重度な方も増え、個別の環境設定を構築するには担当 CM やご家族様との情報共有・収集に課題が残った。

4) 家族支援・ケアマネジャーとの連携と支援

コロナ感染の影響で担当 CM の在宅ワークが増加したことで、CM からの情報が減少した結果、密な情報共有が難しくなった。ご家族様との関わりは送迎の機会を活用することで取り組んだ。

5) 年間稼働率 80%目標

稼働率 69%で目標達成できなかった。入院や入所、急な訃報などが重なった時期があったことや、職員配置に余裕がなく新規希望者に対しても重度な方は対応困難と判断すること原因と考える。目標達成には職員確保・定着が課題。また営業活動でも新鮮さや興味が持てる活動方法の確立が課題となった。

令和3年度 枚方市地域包括支援センター サール・ナート事業報告書

令和3年度事業目標

- 1) 第5圏域の地域包括ケアシステム構築(繋がり)を維持する。
- 2) 新入職員の計画的な指導と評価により、専門職として職責を担えるようになり、他の職員の定着も継続できる。

評価

目標 1)について

計画にあげた予定事業3, 4, 5, 6, 10, については目標達成した。1, 2, 7, 8, 9, については、コロナ禍の影響が続き、7割程度の達成状況と評価する。集う形式で事業開催できなかったことをマイナス評価している。とくに地域対象の事業においては、オンラインの代替手段が難しく、文書、電話、メール等で連携関係を維持するよう努めた。11 については、以下**実績② 指定介護予防支援事業**の通りで、新入職員が定着せず 1 割増しは未達成。12,13 は整備し、研修と訓練を実施している。

目標 2)について

R3 年 1 月 1 日に専門職 1 名入職したが、R4 年 1 月 17 日付で特養へ人事異動となり 8 名から 7 名の職員体制に減少。他の職員は定着している。

総括

全体的な事業実績は、コロナ禍 2 年目の経験による工夫と対策で、前年度よりは向上したと評価する。市の実地指導では「指摘無し」の評価を継続した。今後も変動する環境要因へ適切に対応しながら、事業遂行するとともに、地域福祉の相談窓口としての機能性も維持・向上できるよう努める必要がある。それゆえ、新入職員の定着については指導のあり方と、採用時面接等における適正判断の手法についても再検討が必要と省察する。

実績

① 包括的支援事業(総合相談件数)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度
総合相談総件数	1628 件	1920 件	2280 件 ↑	2483 ↑

② 指定介護予防支援事業

＜介護予防支援計画・第 1 号介護予防ケアマネジメント実績／R3 年 4 月～R4 年 3 月＞

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
直プラン件数	142	132	137	141	135	139	136	138	148	137	143	147
委託プラン件数	171	167	164	176	176	171	167	161	165	161	159	159
Covid 請求 直	2	7	6	1	1	1	0	0	0	0	0	0
Covid 請求 委	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
合計	315	306	307	318	318	312	304	299	313	298	302	306

＜年間プラン実績数＞

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度
直プラン 件数	1555	1505	1418	1439	1739	1697	1561	1675
委託プラン 件数	1676	1919	2237	2347	2265	2291	2108	1997
合計	3229	3424	3655	3786	4004 ↑	3988	3669	3672

※参考 5 圏域高齢者人口の推移

	H28 年 12 月	H30 年 12 月	R3 年 12 月	R4 年 3 月
65 歳以上の人口	7747	7914	7990	7974 ↓
75 歳以上の人口	3514	3974	4396	4442 ↑

社会福祉法人バルツァ事業会 曾津保育園 曾津保育園大宮分園

令和3年度事業報告書

法人所在地 : 奈良市鹿野園町1000番1号

施設所在地(本園) : 奈良市八条2丁目91番地

施設所在地(分園) : 奈良市大宮町2丁目1-17

1. 保育園の運営

(1) 定員(本園) : 140名 定員(分園) : 20名

(2) 一時保育 : 10名(ひまわり組)

(3) 年齢別・月別入所児童数(各月初日現在) 本園

年齢 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳児	標準	8	11	12	13	12	13	13	13	13	13	14	14	149
	短時間	3	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	8
1歳児	標準	24	24	23	23	24	24	23	23	23	23	22	22	278
	短時間	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	2	2	10
2歳児	標準	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
	短時間	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
3歳児	標準	27	29	30	30	30	30	30	30	28	28	27	27	346
	短時間	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	9
4歳児	標準	29	29	28	28	28	29	29	29	29	30	28	27	343
	短時間	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	3	4	20
5歳児	標準	25	24	24	24	25	25	25	24	24	24	25	25	294
	短時間	6	6	6	6	5	5	5	6	6	6	5	5	67
入園		24	2	1	2	0	0	0	1	1	5	1	0	37
退園		0	1	1	1	0	0	0	3	0	3	0	0	9
園児合計		149	150	150	151	151	151	151	151	150	152	154	153	1813
延長保育	前延長	58	48	122	181	124	182	204	142	127	118	91	129	1526
	後延長	28	18	2	7	12	16	24	17	16	18	9	36	203
一時保育預かり		86	52	100	90	98	108	98	117	127	77	106	111	1170

※延長保育 前延長 7 : 45～利用、後延長 19 : 31～利用

年齢別・月別入所児童数(各月初日現在) 分園

年齢 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	標準	7	9	10	10	10	9	9	9	9	10	10	10	112
	短時間	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2歳児	標準	9	10	10	10	10	10	8	8	9	8	7	7	106
	短時間	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
入園		8	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	13
退園		0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
園児合計		17	19	20	20	20	19	18	18	18	18	17	17	221

(4) 職員人員について

	園 長	副 園 長	主 任	保育士	常勤 保育士	非常勤 保育士	栄養 士	調理師	常勤 調理師	非常 勤 調理 士	事務員 その他	合計
4月1日在籍数	1	1	1	15	6(派遣1)	7(派遣4)	1				1	33
年間退職者				1	0	(派遣2)						3
年間採用者				0	0	(派遣3)						0(派遣3)
3月31日在職数	1	1	1	14	6(派遣1)	9(派遣4)	1	2委託	2委託		1	38 (派5)

2. 保育実施状況

<保育内容報告>

乳児期は養護を中心とした保育とし、幼児期は教育を中心とした保育とした
各年齢に応じた保育カリキュラムで全体的な計画を作成し保育を行った

<あいづ保育園大宮分園報告>

今年度は最終、2歳7名、1歳児10名 計17名である

(4月以降、2歳児7名のうち3名は転園・4名は會津保育園へ異動する事となる)

※今年度につきましては新型コロナウイルスの為、幼稚園との行事交流は無。普段の自由遊び
避難訓練については参加

【障害児保育の取り組み】

<現状・対象児>

診断がついている子どもは6名(5歳児:4名 4歳児:2名 (うち特児1名))

加配保育士と個別支援を行いながら集団への取り組み参加できるようにしている

保護者の方と家庭での様子や保育園での様子を踏まえ行事への参加方法を話し合う

保育をする中で、気になる子どもがいる為、慎重に子どもの家庭や保育園の様子を情報交換する。
保護者の思いに寄り添いながら子どもの発達に合わせて支援を行い、支援施設や制度を使いながら
就学に向けてつないでいく

① 対応

- ・療育相談だけでなく、保護者の思いを組み入れながら日々の保育を行う。
奈良市の巡回相談も定期的に行われている。支援施設の数も増えているが、利用数が多く
受け入れ幅が狭い問題点は奈良市としても重要課題としている。

② 協力、団体 施設

S T→ 佃クリニック・フラーテル・ハッピーリング・

O T→ リハビリセンター・東大寺福祉療育病院・ラブリー・フラーテル・ハッピーリング・UT キッズ

＜要観察児の取り組み＞

- ・身体的虐待・心理的虐待・ネグレクトについての要観察児への取り組みを行っている。
関係機関との現状報告、小学校との連携、ケース会議なども行われる。
- ・対象児の視診については毎日欠かさず行い、傷・ケガがある場合は写真を撮って報告する
保護者の気持ちに寄り添いながら子育ての方法などを伝えていく。

＜一時保育＞

R3年度についても新型コロナウイルスで園が休園になっていたが、1170名が利用されている。
一時保育から入所に繋がることも増えてきた

(4) 外部講師の指導状況

英会話 体育教室 茶道 マーチング指導 (5歳児のみ)

(5) 実施した特別保育事業状況

- ・延長保育促進事業・一時保育事業・
- ・マーチングカーニバル・お遊戯会 (0.1.2歳児、りんご組)・生活学習発表会(3.4.5歳児)
- ・秋の遠足 (5歳児) お別れ会 (職員と5歳児) お別れ遠足 (園付近の散歩)

4. 健康管理状況

(1) 園児

内科 年2回 歯科 年1回 眼科 年1回 (3・4・5・歳児)

耳鼻咽喉科 年1回 (3・4・5・歳児) 検尿 (3・4・5・歳児) 身体測定 (毎月)

(2) 職員

定期健康診断 検便 インフルエンザ接種 新型コロナウイルスワクチン接種 (職員のみ) 2回分

5. 非常災害危険防止等防災訓練の実施状況

避難・消火・通報訓練 (毎月)

6. 地域団体・施設・住民実施した交流事業

- ・茶道教室

7. 苦情処理受付状況

苦情受付件数 4件 苦情に対する結果は改善・解決済み。

8. 音楽研修

- ① ミューズ音楽研究所：小林先生よりマーチングの研修を受ける (年間)

同音楽研修の集大成として、マーチングカーニバル (大阪城ホール) に参加

- ② ピアノスキルアップ講座：主任はじめ講師を選出した。全職員のピアノスキルに応じて

課題を考え、午睡中に個々にあった方法を見だし練習し、この繰り返しを一年行った

今年度の対象者は2名。園の行事等が無かったため、普段の保育の中で積極的に弾いていた
また一年の集大成である生活学習発表会でも弾くことが出来た

9. 保護者連絡

今までは紙ベースで保護者とのやり取りを行っていたが、R3年度よりコドモンを導入することにより携帯で連絡・お便り・請求などを行う。また、職員の書類（指導案・計画など）コドモンにて管理する

10. 今後の課題

① R2年度1月の移転より子ども・保護者・職員共に少しずつ慣れてきて大きな問題も無かった

② 課題であった園庭についてもR4年3月に業者が入り修繕することが出来た

引き続き安全確保の為、観察していく

・R5年度4月より大宮分園が都跡こども園に移転する。R4年度中に子どもたちの過ごす環境を整えていく

令和 3 年度事業報告

會津生駒保育園

1. 総括

今年度も昨年同様、コロナ禍での保育という形で計画を立て保育を行った。様々な行事が中止となる中、子ども達の成長の姿を保護者の方々と共有すべく、入場制限やプログラム変更を行ったうえで運動会や発表会は実施した。例年とは異なる形式での行事となったが保護者側からは開催されたことを喜ぶ声が寄せられた。

例年受け入れている小中学生の職場体験や、保護者の保育参加もコロナ禍により実施を見送った。保護者と連携し、地域に開かれた保育活動を実践することや、職場体験を受け入れることは、職員にとっても保育の見直しや、職場の活性化にもつながる有意義な活動であることから、これらの活動もコロナ禍が終息し次第再開したいと考える。

10 月から始まった大規模修繕工事は園を開所した状態での工事で、保育室の移動や園庭が使用できない期間もあったが子どもたちが不便を感じないよう様々な工夫をしながらその期間を過ごした。2 月末には工事が無事終了し、怪我や事故なく安全に終えたことに安堵した。来年度には定員が 60 名から 69 名に増えることを踏まえ、職員の確保に奔走したがまだまだ十分な確保ができたとは言えず、職員確保は来年度以降も課題である。

2. 保育園の運営

(1) 令和 3 年度職員配置(令和 4 年 3 月 31 日現在)

施設長	1 人	事務員	1 人
主任保育士	1 人		
副主任	1 人		
保育士	15 人	(常勤 11 人、非常勤 2 人、派遣 2 人)	
保育補助	2 人	(非常勤 1 人、派遣 1 人)	
嘱託医	2 人	(小児科 歯科)	

(2) 令和 3 年度の入所児延人数

0 歳児 105 人	1 歳児 144 人	2 歳児 168 人	
3 歳児 144 人	4 歳児 144 人	5 歳児 157 人	合計 862 人

(3) 実施した特別保育事業

1. 延長保育事業 延長保育の利用人数は延べ 1080 人で、前年比 406 人の増加。
2. 一時預かりの利用者数は 709 人で前年比 123 人の増加。(コロナウィルス感染症拡大防止のため、今年度も人数制限を行った。)

3. 園児の処遇

園児の健康管理は毎月の身体測定と、年2回の内科検診を実施し、歯科検診は6月に実施。尿検査を6月に実施。視力検査を12月に実施した。また生駒市保健師による聴力検査を行い園児の健康管理を図った。

園児の栄養管理は給食会議を毎月開催し園、委託業者と連携し園児の栄養管理と健康管理に努めた。

4. 職員研修

令和3年度の職員研修は内部研修を12回、外部研修は19回に合計7人の職員が参加した。(内リモート研修15回 7名参加)

養成校からの保育実習はコロナ禍ではあったが感染症対策を講じて8月～12月・2月～3月に7名受け入れた。

5. 防災・防犯

(1) 防災訓練

1. 児童福祉施設最低基準による避難・消火訓練は毎月実施した。
2. 消防法による消防訓練を生駒市消防署の指導のもと、7月に実施した。
3. 消防設備点検を5月、11月に実施した。

(2) 防犯訓練

1. 生駒市警察署員・生駒市防災安全課による安全講習を2月に実施(DVDの視聴のみ。)
2. 生駒市防災安全課・交通指導員による交通安全教室を11月に実施した。(4.5歳児のみ参加)
3. 生駒警察による外部からの不審者侵入対応訓練を10月に実施した。
4. 生駒警察署員・少年補導員による防犯紙芝居はコロナウィルス感染症予防のため中止となった。

6. 地域との関わり

令和3年度の地域支援の取り組みは、園庭開放および親子教室を開催した。

拠点広場事業「すくすく」として地域の親子の場として保育室を提供した。

(1) 園庭解放 毎週月曜日 10:00～12:00

(2) 親子教室 子育て中の保護者の皆様を対象とした親子教室を開催した。

開催月は、4月、6月、7月、10月、11月、3月の第2・第4水曜日。

※大規模修繕工事の期間(11月後半～翌年2月)は中止した。

7. 苦情解決

保育士の対応について(2件)・近隣の住民(1件)は話し合いにより解決した。

令和 3 年度 會津壱分保育園事業報告

1. 保育園の運営

(1) 令和 3 年度職員配置(令和 4 年 3 月 31 日現在)

園長	1 人	保育士	12 人	保育補助	3 人	嘱託医	2 人
主任保育士	1 人	非常勤保育士	8 人	調理員(委託)	5 人	シルバー	2 人

(2) 令和 3 年度の入所児童数の延べ人数 ※前年比 76 人増

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
0 歳	9	9	9	9	11	12	12	12	12	12	12	12	131
1 歳	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	22	284
2 歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
3 歳	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312
4 歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
5 歳	24	24	24	24	24	23	24	24	24	24	24	24	287
計	128	128	128	129	131	131	132	132	132	132	132	132	1567

2. 職員研修・健康管理

(1) ○外部研修への参加

子育て	保健	接遇	人権	熱中症	救急	保育	音楽	
2 回	2 回		10 回		1 回		3 回	

○キャリアアップ研修(専門リーダー6 人・分野別リーダー4 人) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためリモートにて参加

乳児保育	幼児保育	障害児保育	食育・アレルギー対応	保健衛生・安全対策	保護者・子育て支援	マネジメント
7.5H2 回-0 人	7.5H2 回-2 人	7.5H2 回-3 人	7.5H2 回-2 人	7.5H2 回-0 人	7.5H2 回-3 人	7.5H2 回-1 人

○園内研修の実施 ※研修部と各部長が中心となり実施

4 月	安全環境 アレルギー児への食事対応	8 月	訓練の基本 リトミックとダンス	12 月	運動会の準備 保育対応力
6 月	熱中症対策 ピアノアレンジ	9 月	訓練の基本 ピアノ(公開保育)	1 月	コミュニケーション術 絵画指導(公開保育)
6 月	プール事故防止 報連相の大切さ	10 月	サーキット遊びの基本 嘔吐処理の仕方	2 月	誤飲と誤嚥 保護者対応
7 月	発表会の進め方と指導法	11 月	ドッチボール大会 公文指導法(公開保育)	3 月	コドモンの使い方 時差保育の大切さ

※職員会議(毎月)、各委員会会議(随時) 各会議の実施を行うことで保育を円滑に進められた。

(2)職員の健康管理

○定期健康診断(年 1 回・4 月)を実施 ○細菌検査(年 2 回・6 月、12 月) ※乳児担当保士は毎月実施

○インフルエンザ対策として流行期前(11 月)に予防接種を受けた。

3. 園児の健康管理・衛生管理

毎月	身体測定(全園児)	5 月	歯科検診 (2~5 歳児)	2 月	聴力検査(4.5 歳児)
6,11 月	内科検診(全園児)	10 月	尿検査(3~5 歳児)	3 月	視力検査(4.5 歳児)

4. 給食・おやつとの取り組み 委託業者、名阪食品株式会社と連携をとり、月 1 回の給食会議、献立改善、行事食提案等、安全、安心、楽しい食事の提供が出来た。

5. 地域との関わり

○保幼小交流会(壱分幼稚園、いちぶちどり保育園、壱分小学校)

4 月	今年度の活動打ち合わせ	10 月	壱分幼稚園と交流会リレー対決	3 月	今年度の取り組みのまとめ
6 月	校内めぐり	11 月	給食体験		
6 月	保・幼・小の取り組みについての情報交換会	1 月	校區別話し合い		※コロナのため、秋祭り・校長先生のお話会等見合わせ

○地域の行事：どんどこ祭り(8 月)いこいこ祭り(11 月)は年長児の参加予定がコロナの影響で見合わせ。

○職業体験受け入れ(11 月)コロナにより中止

○実習生の受け入れについて

7月	大阪城南女子短期大学 2人	8月	四天王寺大学短期大学部 2人	2月	四天王寺大学 1人 帝塚山大学 2人
----	---------------	----	----------------	----	-----------------------

6. 苦情対応 ○ご意見 BOX による苦情や要望 0 件、事務所に直接要望 1 件

7. 事故・災害への危機管理

(1)各種訓練の充実を図る ※各関係機関と連携し訓練を行う

毎月	避難・消火・地震訓練	8月	消防通報訓練	2月	消防通報訓練
7月	不審者対応研修	10月	交通安全教室中止	2月	防犯教室

(2)保育環境の整備

○防災たたみ、マット、避難用抱っこヒモ購入 ※機能強化費補助金にて対応

○非常通報装置新設工事 ※防犯対策強化事業補助金にて対応

○非接触マルチターミナル、加湿空気清浄機の購入 ※新型コロナウイルス感染症補助金にて対応

○コドモン(教育施設向け事務作業支援システム)のための iPad 購入 ※備品充実費補助金にて対応

8. 実施した特別保育事業

(1)延長保育事業 午後 6 時 30 分～午後 7 時 30 分 ※前年比 503 人減

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
149	114	143	122	106	120	146	139	147	104	90	143	1523 人

(2)一時預かり保育事業 月～金：午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分 ※前年比 333 人増

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
半日	7	7	14	17	13	12	17	19	31	13	18	21	189 人
1日	76	75	72	105	63	61	72	66	70	45	76	100	881 人
延べ	83	82	86	122	76	73	89	85	101	58	94	121	1070 人

(3)心身障がい児保育事業

4 歳児クラス 1 名 (加配保育士 1 名) *障害の程度や年齢からみて加配の配置を行った。

(4)子育て支援拠点事業(こもれびひろば) 毎週：月・水・金 9：00～14：00 まで

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
組	6			10	2		10	8	10	4		1	51 組

(5)親子教室(0 歳コース毎月第 2 金曜日・1.2 歳コース毎月第 2 水曜日) 10：00～11：00 まで

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0 歳	0			2		0	3	0	0	1		6 組
1.2 歳	3			4		1	1	3	3	5		20 組

※(4)・(5)の 5.6.9.2.3 月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業

9. 総括

前年度に続き新型コロナウイルス感染症が収まらない中、保育の制限や規制がありながらの運営でありました。感染予防対策として休園や登園自粛の措置が取られる中でも、出来るだけ多くの経験ができるよう、十分な感染予防対策を講じて保育活動を行いました。年長児に関しては、園外活動を小規模で行い、地域の保育園、幼稚園、小学校と連携を図り「保幼小交流」は実施に至りました。また、昨年受け入れを縮小していた「一時預かり保育」については新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、受け入れを再開したところ、前年度より 333 人増加したことから、待機児童が解消されていないことが再認識できました。次年度も新型コロナウイルス感染症予防を図りながら、すべてを簡素化にするのではなく、豊かな活動内容になるよう進めていきたい。保育士不足の問題ですが、今回離職者が多く出たことで現職保育士の士気が下がってしまわないか不安要素がありますが、働きやすい環境、長く勤められる職場であるのか、また新卒者にどのようにアピールしていくのが課題となります。